

第4回 千歳市かわまちづくり検討会 議 事 要 旨

■日 時：令和6年10月29日(火) 13:30~15:00

■場 所：千歳市総合福祉センター402号室

■出席者：

千歳市かわまちづくり検討会委員 12名（うち代理出席者1名）※1

堀野会長、菊池副会長、鈴木委員、大久保委員（吉田委員の代理）、
佐々木委員、北山委員、松澤委員、角谷委員※2、市川委員、藤吉委員、
宮川委員、川田委員

※1 矢部委員は欠席

※2 Web 参加

■議事内容：

次第に沿って、事務局（千歳市）から説明。

○資料1：第3回検討会、現地視察の振り返り

・各委員からの意見なし

○資料2：かわまちづくり計画書一次案の修正について

各委員からの発言は以下のとおり。

・グリーンベルト周辺で定量的な目標を考えた場合、全体の観光入込客数を当てはめるのは無理があるので、目標は道の駅1つに絞ってはどうか。そのほかの箇所については、例えばアンケート調査など別な方法で評価するのが現実的ではないか。

→定量的な目標の設定にあたっては、本計画が道の駅だけを対象とした計画ではないことを踏まえ、過去からのデータ蓄積がある2つを目標とした。国と協議を行うが問題がなければ、この2つを定量的目標としたい。（事務局回答）

・カヌーのガイドラインは、現状で利用者が多い、「さけます情報館」周辺などの上流区間も含めたガイドラインができるとよい。

→現在のカヌーの利用状況を踏まえ作成していくことが必要と考えており、ガイドラインについては、計画書を策定した後に設立する「（仮称）千歳市かわまちづくり推進協議会」（以下、「推進協議会」という。）でよく検討したい。

（事務局回答）

- ・グリーンベルトとサーモンパーク間の移動にあたって、やむを得ず迂回が必要な区間については、案内看板などにより目的地までのルートをわかりやすく示す必要がある。

→千歳川沿いの河川管理用通路のアンダーパス化などの整備に合わせ、推進協議会の中で案内看板の内容についてもよく検討したい。（事務局回答）

- ・インバウンドの観光客によるゴミのポイ捨てが非常に多いと聞いた。千歳川周辺での外国人観光客の利用に関する注意喚起が必要であり、ガイドラインについては多言語化することが望まれる。

例えば、ガイドラインの内容を多言語化したウェブサイトを構築し、看板にウェブサイトにつながるQRコードを示すことなども考えられる。

→ご意見を踏まえながら、推進協議会でよく検討したい。（事務局回答）

○資料3：千歳市かわまちづくり計画書（素案）

各委員からの発言は以下のとおり。

- ・カヌーから橋を見上げると、現状ではあまりきれいとは言えない。景観をよくするための橋の塗装などは予定しているか。

→橋梁について、景観のみで塗装を行う事は予算的にも難しい。現地視察での意見として、カヌーに乗る特別感が出るような仕掛けづくりに関する意見もあったが、ソフト面で何か取り組めることを検討していくのが現実的であると考えている。（事務局回答）

- ・計画書の内容に意見はないが、文章、文節が長く、意味が読み取りづらい箇所があるため、事務局に一任するので修正してほしい。

→修正する。（事務局回答）

- ・市民や観光客を千歳駅からグリーンベルトや千歳川へ誘導する動線の検討は、今後行っていくのか。

→推進協議会で検討する。（事務局回答）

○資料４：今後の予定

- ・事務局から、令和６年１２月中旬以降にパブリックコメントと町内会を対象とした計画（素案）の説明会を開催すること、また、１１月以降、国土交通省との協議が始まり計画書の文章などについては修正が入る可能性があることなどを説明。

各委員からの発言は以下のとおり。

- ・清水町周辺など、景観が大きく変わる可能性のある地域の町内会には、説明の上、意見を聞く必要があるのではないか。
- 説明会の案内は全町内会に行い、出席した町内会に対して説明を行うこととしているが、千歳川沿いの町内会などへの個別の説明については、出欠の状況を見ながら事務局で検討したい。（事務局回答）

以上